

令和 8 年度第 1 回岡崎市地域包括支援センター・地域密着型サービス
運営協議会 議事録

1 日時

令和 8 年 7 月 13 日（月）午後 2 時～午後 3 時 30 分

2 場所

岡崎市福祉会館 2 階 201 号室

3 出席委員

柏原正尚会長、鈴木正博副会長、小澤竜三委員、鈴木基広委員、
竹本達司委員、鈴木義光委員、小早川稔委員、奥村直子委員、
壇広実委員 以上 9 名

4 欠席委員

子安由美子委員

5 事務局

福祉部：加藤部長

ふくし相談課：藤谷課長、寺西副課長、鈴木係長、浅野主査、熊谷主査
長寿課：手島課長

介護保険課：神尾課長、天野副課長、藤井係長、中込主事、平井事務員

6 報告

- (1) 地域包括支援センターの運営について【公開】
- (2) 第10期施設整備計画案について【非公開】
- (3) 地域密着型サービス事業所等の指定（令和 8 年 8 月 1 日時点）について【公開】

7 議事録（要旨）

報告について、事務局から説明

- (1) 地域包括支援センターについて【公開】

（鈴木委員）3 ページの表 5 についてだが、私は岡崎東の地域包括支援センターの院内報告会の中でチェックをしているが、直営 302 件で委託が 629 件というのは、感覚としておかしいと感じたが、どこからデータを持ってくるのですか。

（事務局）こちらの数値は、各地域包括支援センターからの報告を基に作っています。

（鈴木委員）私の 6 月の報告としていただいているのは、直営が 62 件、委託が 123 件だった、あまりにも違うので疑問を感じています。

（会長）今のお話からすると、岡崎東だけかなり大きな数字の違いがあるということですが、私も資料をチェックした時になぜこんなに数

値が大きいのかと感じました。

(事務局) 再度確認をさせていただきます。

(会 長) 内容が分かっている委員がいたので間違いが分かったが、そうではない場合が怖いので、再度御確認いただけるとありがたいと思います。他の所もチェックをお願いできますか、ずれているかもしれませんので。過去のデータでも急激に上がっている所などもどうかといった見立てもしていただけたらと思います。

他にいかがですか。

(壇委員) 市民サイドからの意見になりますが、3 ページですが、表 1 の相談者別対応件数で、「本人」「家族」が一番多くて、「地域」とか「公的機関」もすごく多いと思う。我々住民なので、地域とか民生委員とかかがもう少し相談にのって、地域包括支援センターに繋ぐといった働きができたらいいいのかと思うが、それでいいのかという確認と、表 3 を見ると一番多い相談内容が「介護」のことになるのだが、かっこ書きで、「介護保険制度に関する事」となっているが、介護保険制度の相談がなぜ多いのかと考えると、切実だからということと、制度が非常に複雑だからというのがあると思う。我々的に言うと、例えば講座などでうまく伝えられればこのあたりが少し変わっていくのかなと思うが、その 2 点お願いします。

(事務局) 相談件数につきましては、確かに地域包括支援センターが数多くの相談に対応しておりまして、地域の方々、学区福祉委員の方々、民生委員の方々に、住民からの相談を聞いていただいて必要に応じて地域包括支援センターに繋いでいただいていると認識しております。ですから、今もっと地域としても頑張りたいと言っていていただいて本当にありがたいですし、状況によって福祉の窓口に繋げていただきたいと考えております。

(壇委員) 介護保険に関する関心が高いのはよく分かるのだが、原因は何でしょうかね。複雑だからですかね。

(事務局) 地域包括支援センターが、高齢者の相談窓口として定着してきたというのが一つ大きくて、やはり一番多いのは、介護サービスを使うにはどうしたらいいのかというのと、介護サービスはどういったものがあるのですか、という御質問が多いのかなと思っております。件数は多いのですが、ある意味当然の質問で、これについては地域包括支援センターとして、それほど対応に困るということはないと思います。それよりも介護保険サービス以外で、こ

れはどうしたら解決できるのかな、というようなことのほうが、対応に苦慮している状況でございます。

(壇委員) 分かりました。相談の入口ということですね。でも、地域で支えていけたらと思っていますので、また教えてください。

(会 長) 今のお話は、おそらく、近年、介護保険以外の相談を地域包括支援センターのほうでされるというようになってきているというのがあると思います。「障がい者福祉に関すること」の関係は、2年前からかなり多くなっていますし、昨年以来、複合的なものも計上されるようになったと思いますので、そういった件数が入っていると思いますけれど、ざっくりと介護保険がらみのものとそうでないものがどの位増えてきているかによって、地域包括支援センターのお仕事が、だいぶ変わってきているのではないかと思います。

この協議会でも、その懸念を以前からしているところで、職員はそんなに増えないのにこのまま増えていっていいのかな、という話は漫然とされてきていたと思いますが、実際に御負担が大きいようだとか何らかの手当をしていかないと厳しいのかなと思いますので、そういったことは皆さんから議題にあげていただけたらいいかなと思います。そうは言っても表4と表3を見ていただくとおそらく相談件数と内容についてなので、単純には案分できないですけど、一人の方の相談が複数化しているというのが分かるのではないかと思います。以前から確認させていただいているところですが、その辺りのところもまた、御助言いただきましたらありがたいと思います。

表2ですが、委託は多少微増しているが、頭打ちといいますか、委託できにくい状況になっているのではないかな、と思います。どうしてもやらなくてはならないとなると、直営でやらなくてはならない。これは昨年一気に増えているので、この圧迫が、地域包括支援センターをさらに大変にしているのではないのでしょうか。もしかしたら、直営でプランを立てるのに四苦八苦しているのではないかな、と想定をするのですが、その辺りを教えてくださいませんか、大丈夫なのでしょうか。

(事務局) 正直、7年度の実績を見て私共もショックを受けていたのですが、先ほど委員から数字がおかしくないか、との御指摘がありましたので、再度確認させていただきます。確認と分析が不十分だったことについては、本当にお詫びしますが、この件数を見た時にこ

れでは地域包括支援センターが本当に大変になってしまうと焦り、7年度の要支援の介護認定者数を確認し増えてはいたのですが、プラン件数はここまでではなかったのも、なぜだろうと不思議に思っていました。認定者数が増えていないのに、予防のサービスを利用する人が急に増えたのか、これは第10期計画のサービス量の見込みについて検討する必要を考えていたところなので、単純に報告の数字の集計ミスであればよいと思いました。

(会 長) 皮膚感覚で分かっている人はおかしいなとなりますけれど、そうでない人には、数字が一人歩きしてしまい、危険だなと思いますので是非チェックをお願いしたいと思います。数字に関して言うと、おかしいなという数字の感覚もありますけれど、皮膚感覚で地域包括支援センターの御担当の方中心に、どうもここ数か月大変になっているなということについて、上げていただいたほうが私としては良いのではと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) そういう意味では、昨年度、実地確認で回らせていただいた際に、ケアマネ事業所に委託のお願いをしても断られることが多いとお話がありました。地域包括支援センターとしても苦しいので、3回位頼むとのことでしたが、そうするとなんとか受けてもらえることがあると聞いています。

(会 長) 昨年、地域包括支援センターでなくても、直で介護予防のプランを立てられるようになったと聞いているが、そこら辺りの数字が分かりにくくて、そんなに伸びてないということを以前伺ったような気がします。そこが直接で済むのであればいいのかもしれませんが、それが断られてしまって大変な状況が続くのであれば、地域包括支援センターとしてはかなり厳しいのではないかな、と思います。

(事務局) 委託ではなくて、介護予防の指定を受けている事業所というのが、本日の会議資料でいうと資料3のところに一覧で出てきますが、現在6事業所だったと思います。

本当に少しずつしか増えていない状況ではありますが、受け皿として増えて欲しいと思っています。

(会 長) 啓発なども含めて、皆さんと一緒にやってみましょう、というのがないと、地域包括支援センターが頑張っていくようだと怖いなと思ひまして。

収支のことになりますが、急に繰入金のところは昨年と比べて増えたり減ったりということがいくつかの事業所であるのですが、

令和7年度のところで増えたところは特別に何か起こったのか、ということと、人件費で退職費が出ていますが、ここについて急に辞められたというところに引き当てられているということもあるとは思いますが、以前伺ったかもしれませんが、退職の引き当てについては、その期間中に地域包括支援センターにいらっしゃった分についてだとか、ずっと長く法人にいらっしゃって、たまたま地域包括支援センターの在籍時に辞められたのかということは、その割当については基本的に法人にお任せなのでしょうか。なぜ急に増えたのか、繰入金のことだけで見ても分からなくて、その辺りいかがでしょうか。

(事務局) 私どもも、各受託法人さんからの決算報告で上がってきたものをこのような形でまとめており、詳細は分かりませんが、長年お勤めで施設にいらっしゃって、たまたま最後の年は地域包括支援センターだったというのは、あり得ることかと思っています。

(会 長) 以前から協議会のほうでも頑張ってやった所にインセンティブを付けてはどうか、という御意見もあったりしていたのだが、なかなかそういったことのチェックは難しいということでしたが、お金のことについては、毎回確認しましょうということになっていたと思います。その時に、だいたい法人の給与体系も違うので一概には言えないのですが、退職金や繰入金の出し入れについての数字は、概ね市としてもこういうところが妥当かなとか、急激な差があるところについてはなぜですか、と聞いていったほうがいいのではないか、と思いますが、何かお分かりのところがあれば教えていただけますか。

(事務局) 会計間の繰入金、繰出金のところについては、令和6年度に他の事業間の繰出しの上限設定を、5%から10%に変更した時に委託料の返還額が減ったので、そこを緩和したのは実態として適正になってきているのではないかと、思います。

(会 長) 年々、その差額については、全体としてどういった傾向だったのか、ということについてと、やはり個々の地域包括支援センターによって違いがあるので、そのままでいいのかどうかの確認は、させていただけたらいいかなと思っています。地域包括支援センターによって違いがあるのは分かっていますが、大変になっているのに人件費を抑えられて職員が辞めてしまうと、地域包括支援センターが成り立っていかないのではないかと、思い聞きました。他にいかがでしょうか。数字が多くて見え難いとは思いますが。

全体の収支について、相談件数のこと事業計画のことで質問したが、事業計画はここ数年で見易くなっている。この作業を地域包括支援センターでされる時に苦労されているのではと思うが、せっくなので地域包括支援センターのいい事例などをまとめたり、研修等してはと意見させてもらったことがある。計画がまとまっていけば市としては使えるものになるのではないかとと思う。計画が資料としていけると良い。是非、活用していただきたいと思っています。協議会でも話をしていくといいと思う。せっくなので有効に使ったほうがいいと思う。

(事務局) 重点事業計画については、過去いろいろ御意見をいただいているところで、昨年度、地域包括支援センターも、どういう課題感でどういう取組をしていったらいいのかということで、研修を行いました。この会議の間でも御意見をいただきながら、より良いものにしていきたいと思っています。

(2) 第10期施設整備計画案について【非公開】

(3) 地域密着型サービスについて【公開】

(会 長) 認知症高齢者グループホームやデイサービスの利用者の差が出ていると思います。指定の申請があれば受けていただければいいのですが、運営がしにくくなっているような法人さんなどがいらっしゃるか懸念していますので、そういったことがあれば報告いただけたらと思います。マッチングがいいのか分からないが、法人さんの合併とか、岡崎でも起こりうることで、法人運営としてはあるのではないかと思います。

(会 長) 本日の内容は全て終了したので、事務局にお戻しします。

(事務局) 本協議会について、次回は12月の開催を予定しています。

これで令和8年第1回岡崎市地域包括支援センター・地域密着型サービス運営協議会を終了します。

以上